

## ごぼれ話 19

### 二つの東光寺と安産祈願

現在の新町・栄町の一部は、かつて東光寺と呼ばれていました。東光寺にあったという薬師堂が、成就院（栄町五丁目）の境内に移築されています。薬師堂にはさまざまな病気の平癒を祈る絵馬が懸けられています。特に安産薬師として知られています。安産を祈願する者が枝栗や藁づとに入ったイガ栗をお供えすると、イガが割れて中から立派な栗の実が現れるように、元氣な子が生まれるとされました。東光寺安産薬師の例祭は十月十日でしたが、現在はその前後の休日に行われます。

市域には他に、三沢にも砂土山東光寺という寺があり、やはり境内に薬師堂がありました。砂土というのは、この辺りの地層である平山砂層を指しています。三沢の東光寺は明治時代に廃寺となり、寺の跡（三沢二丁目）には現在、地藏堂が建っています。中には貞享四（1687）年と享保三（1718）年建立の地藏立像があり、砂土地蔵、また安産地藏と呼ばれています。

どちらの安産祈願も共通して、上がっているローソクを持ち帰り、お産が始まるとそのローソクに火を灯せばお産が軽くすむ、といわれました。自然分娩による自宅での出産が当たり前だった時代には、母子の無事を祈るこうした信仰が盛んだったことを物語っています。

